

# 「すべての子供が生きやすい・過ごしやすい、学校・社会をめざして」

## ～性の多様性を認め合う仲間作り～

伊丹市立伊丹小学校

教諭 岸田 育子

### 1 はじめに

2013年9月、「自分の性に違和感を持つ2年生の男子児童」が、本校の特別支援学級に転校してきた。身体は、「男性」であるが、「心は、女性であり、女性らしく自分らしく生きたい」という強い思い・願いを持っていた。担任として、私は最初、正直どう進めて良いか、どう対応して良いか分からず、戸惑うことも多かったが、児童・保護者の気持ちに寄り添いながら、一つ一つの課題に向き合い取り組んでいった。

### 2 取組の内容・方法

#### (1) 教職員の意識を変える

##### ① 学びの手がかり

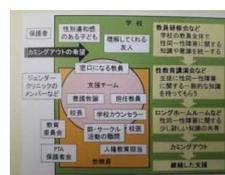
- ・ 何も知らないことからのスタートだったため、まず、私自身が勉強し、当事者の会との繋がりの中で、2014年5月、当事者の小林和香さんに出会った。子供と向き合うに当たっての悩みや相談に乗ってもらい、話をする機会を得た。
- ・ 「いろいろな性別LGBTに聞いてみよう～」のDVDを全教職員で見て、感想を述べあった。レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの多様な性の人達が、自分の思いを伝え、表現しており、初めてLGBTの人達の思いを聞いて、多くの職員が考えを持つなど、良い研修の場となった。
- ・ 東大阪市淀川区のLGBT支援事業 東優子さん（大阪府立大学大学院教授 GID学会理事）監修、教職員向けLGBTハンドブック「性はグラデーション」を職員研修で学習し、理解を深めた。



##### ② 校内研修会の開催

- ・ 岡山大学大学院保健学研究科 岡山大学ジェンダークリニック GID（性同一性障害）学会理事長（2014年8月）  
講演「学校の中の性別違和感を持つ子供」～性同一性障害の生徒に向き合う～  
とても分かりやすく詳しく教えていただき、職員一人一人が深い学びを得た。

#### 【中塚幹也先生の講演会】



- ・ 大阪医科大学神経精神医学准教授 ジェンダー外来ドクター（児童の主治医）  
康純先生（2014年10月）  
児童の身体の様子、心の様子、これからの学校生活で配慮することなど、詳しく話していただいた。
- ・ 当該児童の保護者（2015年2月）  
母親の思い・考え・学校に望むことなど、全職員の前で話していただき、学校の体制作り、環境作り、そして、児童理解の共有に繋げた。
- ・ 「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施などについて」  
文科省通知（2015年4月）  
DVD「あなたがあなたらしく生きるために」性的マイノリティと人権（監修 日高庸晴）を見て、職員研修会を開く。
- ・ 宝塚大学看護学部教授（2015年8月）  
リーフレット「子供の人生を変える先生の手記」「我が子の声を受け止めて性的マイノリティの子をもつ父母の手記」を読みながら、性の多様性、学校ですべきこと、職員の人権意識の向上を課題にあげる。
- ・ 当事者、田中一步さんの講演会（2015年9月）  
性の多様性、どんな性の在り方も排除されない学級・学校とは、学校は何をすべきか等、職員の意識を高める。
- ・ 田中一步さん、近藤孝子さんの講演会（近隣小学校・中学校との合同研修会）  
「どんな性の在り方も排除されない学級・学校とは？」～子供たちとの出会いから見えてきたこと～

### ③ 外部研修会への参加

- ・ 兵庫県養護教諭大会 宝塚大学看護学部教授講演会（2015年2月）
- ・ 生徒交流会参加（2015年2月から数回参加）
- ・ 伊丹市教職員研修会 宝塚大学看護学部教授講演会（2015年10月）
- ・ 伊丹市養護教諭大会 康純先生講演会（2016年2月）
- ・ 伊丹市人権教育大会 小林和香さん、田中一步さん講演会（2017年1月）
- ・ 伊丹市教職員研修会 東優子先生講演会（2017年7月）

## (2) すべての児童の心を育む取組

### ① 「性は多様である」ことの出前授業の実践（2017年・2018年）

「当事者の田中一步さん、パートナーの近藤孝子さんの話を聞く」出前講座の実施。（5・6年）資料の活用を進め、図書室・保健室・教室などいろいろな場所に「性」に関する絵本・リーフレットを置いた。



- ② 「女だから」「男だから」という考えに囚われず、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解したりしようとする態度を育てる。また、服装や遊び、嗜好は、自分の好きなもので良いことを理解するため、人権学習の授業を行う。

- ・ 絵本「こんなのへんかな？」村瀬幸浩作 大月書店
- ・ 絵本「いろいろな性ってなんだろう」他 渡辺大輔作
- ・ 絵本「じぶんをいきるためのーる。」I P P O作
- ・ 絵本「イリスのたんじょうび」がりーどちえこ作



(3) 性に違和を持つ、トランスジェンダーの児童への支援

① 居場所と学習支援の場を作る

特別支援学級在籍であるので、学習は、個に応じた授業を行った。転校して来てからずっと男児向けの服装・持ち物だったのを、3年生で、全て自分が好きな服装（スカート・ワンピース）・持ち物へ変更し、4年生で、女の子の名前に変更した。自分らしく、自分の好きな性になることで、辛い思いや心が傷つくこともたくさんあった。しかし、行事等の取組を通して、クラスの友達との関わりを大切に、仲間との繋がりを大切に、クラス担任と支援学級担任が、常に連絡を取り合いながら、クラスでの居場所作りに努めた。

② 自認する性で生活できるように

体育・プール・運動会・トイレ・着替えの場所・宿泊・身体測定など、本人と相談し、周りの状況を見ながら、一つ一つ丁寧に体制を整えていった。

③ 中学校へ向けて

- ・ 私立中学校受験時は、試験・面接・願書等、女性名で受けられるよう依頼する。
- ・ 田中一歩さん、近藤孝子さんと一緒に、校区の中学校長・中学校教諭との話し合いを持ち、中学校生活のよりよいスタートについて考える。(2018年2月)

(4) 教科学習のカリキュラムの見直し等

① 全学年で、全教科学習において、「性」に関して、よく理解した上で、見直しを行った。特に大きく見直した点は、以下のとおり

1年生 → 自分にできる家の仕事（男・女の仕事、男・女の役割分担）

2年生 → 自分の成長を振り返る（小さい頃の写真や名前の由来を通してのアルバム作り）

3年生 → 性器のつくりと働き（男・女だけの性器ではない場合もある）

4年生 → 身体の変化（発育には、個人差があり、思春期に、必ず異性を好きになることもない。性の嗜好も様々である）

5年生 → 心の多様性・性の多様性を知る

6年生 → 第二性徴に伴う身体の変化（個人差があり、必ずあるとは限らない）

② 学校生活の中で、不必要な男女分けや「性別」に特化した記述の廃止

- ・ 学校で作る配布物には男女の欄を廃止する
- ・ 本人への全ての配布物は、女性名で記入・配布する

### 3 取組の成果

(1) 教職員の人権意識の向上

様々な研修や日常の実践を通し、20人に1人はいるLGBTの児童の課題や実態、心のしんどさ、心の叫びが一つ一つ見えてきた。まず、児童の心に寄り添うことが大事であると考え。そして、自尊感情を高め、心の安定を図る居場所作りが必要である。そのための手立てが職員全体に共通理解されるようになった。また、「性の多様性を考える」授業に取り組む姿勢も大きく変化してきた。

(2) 「自分らしく生きていい」という子供たちへの意識付け

出前講座後の感想では、「自分は、変だと思っていた。でも、変じゃなかった。自分らしく生きていきたい。」「いろいろな人がいて、みんな違うけど、おかしいことではない。」「自分の好きなように歩いていくことは大事であり、大切なこと。」と、一人一人が、性について深く考えることができた。

### 4 課題及び今後の取組の方向

(1) 第二性徴を迎えるにあたって、本人のしんどさが考えられる。関係機関（ドクター）と連携を取りながら、進めていく必要がある。

(2) 小中の連携が、非常に難しい。小学校では出来ていた本人の希望通りの宿泊や、行事への参加や学習も、第二性徴を迎える中学校では取組方が難しいと言われる。また、部活動で大会に出られるのか等の「制度の壁」や疑問点もたくさん出てきた。中学校との連携や話し合いも定期的に行っていく必要を強く感じた。

(3) 保護者への啓発

家庭内での会話の中で、性に関わる差別的な言葉が飛び交っている実態が把握できた。大人・保護者の理解は急務であると考え。

今、こうして取組をまとめながら、「性の多様性」に関する学習は、学校として、まだまだ不十分な取組であることが分かった。今まで、性について悩んだり、つらい思いをしたりしてきた子供達が多くいたことに心が痛む。これからは、どの学校も、「どんな性の在り方も排除されない学級・学校」を作っていかなければならないと考える。まだまだ、課題はたくさんある。その一つ一つに丁寧に向き合い、考え、全ての児童・生徒が楽しく学校生活を送れるように取り組んでいきたい。